



11月23日、市民会館の大ホールにて横田久世さんをお招きして『希望〜親の背中が道標〜』をテーマにご講演いただきました。

平成29(2017)年、突然40度の発熱。翌日に意識不明の重体となり、電撃性紫



◆全体講演
『希望〜親の背中が道標〜』
講師 横田 久世 さん

今年度の大会テーマは「希望」〜子どもたちの輝く未来へです。

現代の子どもたちは、情報化社会において多種多様な価値観に触れながら育っています。

そんな子どもたちの健やかな成長と個性を育てるためには、家庭・学校・地域が一体となつて支えていくことが大切と考えます。

開会行事では、熊本市PTA協議会の濱石浩二会長の主催者あいさつに始まり、9名のご来賓を代表して熊本市教育長遠藤洋路様よりご祝辞をいただきました。

「口頃から子どもたちのために会員同士で学び合い協力しながらPTA活動を通じて学校を支援していただいています。地域づくりにおいても献身的に取り組まれ協力していただいていることに敬意を表すとともに感謝申し上げます」と謝意を述べられました。

子どもたちが未来へ「希望」を持てるよう、私たち大人がいまできることを考える時間となりました。

(当日の様子は熊本市PTA協議会のHPに載せておりますので、ぜひご覧ください。)

（教養委員長 井手 和宏）



第37回 熊本市PTA研究大会

令和5年11月23日(木)・祝 市民会館シアーズホーム夢ホール・大ホール



題 字 大西 一史 市長

熊本市PTA協議会

会 長 濱石 浩二
編集責任者 廣島 大樹

〒861-8074 熊本市北区清水本町16-10
熊本市健康センター清水分室新館 2F
TEL(288)3750 FAX(288)3754
http://kumamotocity-pta.net
info@kumamotocity-pta.net
印刷：(株)キャップ TEL(362)3333

斑病」を発症します。意識が回復してきた横田さんに医師が告げたのは両足両指の切断でした。

翌年1月、両足両指を切断。暫くは激痛と麻酔の繰り返しで眠れない日々。そんなある日、主治医の先生から義足の話を聞き希望を見出します。

リハビリ病院へ転院し、4月には退院。半年後には車の運転もできるようになりました。できることが増える半面、家族は現実を受け入れるまでに時間がかかりました。そんな中、退院した時に掲げた2つの目標を思い出します。

『自分が障がい者になった出来事を絶対に悪い出来事にしない』

『最後は笑ったもん勝ち』

「私ができることは何だろう?」と考えていた時、熊本城マラソンの申込があることを知り出場を決意します。目標は14.5km。結果22.6kmを走ることができました。

次は完走したいという思いの中、ホノルルマラソンに挑戦。途中サポートしてくれる周りの方々の励ましの中、最後は娘さんの背中を見ながら手を引かれてゴールしました。

帰国後、再度熊本城マラソンへの挑戦を決意しました。今度は30kmを時間内に走り切るという目標の下、本番では制限時間内ギリギリで完走することができました。

良い所も悪い所も全て見せ挑戦を続ける横田さん。何度失敗しても何度挑戦したついで。そんな姿を子どもたちに見せていくことが大切なのだと思います。親のありのままの生き様。親だから子どもだからということではなく素直な気持ちを一人の人間としてぶつけ合っていくことで親として成長させてもらっているのだと感じました。人生様々なことがあります。『最後は笑ったもん勝ち』を忘れずに笑顔で過ごしていきたいと思います。

(麻生田小学校PTA 栗崎 大輔)

◆PTA活動報告①

『子どもたちのための登下校当番革命』
〜「自助・共助・公助」龍田西小学校
校区を安全で住みよい校区へ〜

龍田西小学校PTA執行部は「コロナ禍での活動制限の中でPTAが何のための組織か」という疑問から「子どもたちの安全を守る」ことが保護者としてやるべき一番のことだということ考えにたどり着きました。

たくさんの改善案の中で最も力を入れた活動は「子どもたちのための登下校当番革命」でした。それまでの登下校は、子ども会運営の登校指導と学校から呼びかける地域スワールガードの方々が見守ってくれて、PTAは手をかけず地域の方が通学を見守っている状況でした。

初めに登校指導を子ども会運営からPTA運営に変更しました。次に長子の学年と出席番号をリスト化することで登校指導リストから名前をなくし、個人情報が見えなくなることで安心メールを活用し連絡できるようになりました。さらに、報告書を提出するか、執行部専用のメールアドレスに報告をしてもらい、危険箇所の周知のスピードアップを図りました。重要なのは登校指導の立つ位置でした。これを自分で決めて見守ることにすることにより、保護者の協力意欲を上げることに成功しました。また、安全対策委員会だよりを1学期に1枚は発行しPTAはもちろん自治協議会も含めて配布し情報共有をすることで、子どもたちをより安全に守れるようになりました。

時代が変われば、子どもたちを取り巻く環境もかわりますが子どもたちのためにという理念は変わりません。それを守り続けるPTAでありたいと思うとともに、執行部を理解しPTAに加入してくれる人が増加することを心から願います。

(山本小学校PTA 副会長 園田 泰広)



◆PTA活動報告②

『あなたの悩みは私たちの悩み』
〜みんなで解決! 帯中はつす〜

「皆さんのお子さんは、身近な人や友達に助けてとSOSを出せますか?」という問いかけから始まった帯山中学校の活動報告。

SNS等が普及し顔を見ない人との距離が近くなった半面、身近な人や友達に触れあえる時間が減り閉塞感がある時代。

アンケートでは、家族や友達に助けると言えない子どもたちが増加し3割になりました。

相談しない人の大多数はオンラインゲームを1日3時間以上して、SNSでの投稿で誰からの反応が欲しいですか?との質問には「ネットの知らない人から欲しい」と回答しており、犯罪等に巻き込まれることが懸念されます。別のアンケートでは、「自分の親でも人の親でも教師でも、大人であれば誰でもよいが、大人に受け止めてもらえなくて困っている」とありました。

「誰かに受け止めてほしくてネットで受け止めてもらっているのではないか」それを重く考えた帯山中は、ネットを子どもたちのSOSを受け止める手段として利用するために「帯中はつす」をPTAと協力してやるうということになりました。

「帯中はつす」とは匿名で生徒が生徒に相談できるピアサポートや生徒が友達の親に相談することができるところです。逆に親が帯中はつすに相談し解決した事例もあり順調に広がりを見せているようです。

「PTAはいつでも自分たちを守ってくれている」「いつでも話を聞く」という姿勢をHPを通して子どもたちに伝えたいです。いつでも子どもたちの相談にのることができるこの場所が、これから広がって行くことでしょう。

(山本小学校PTA 副会長 園田 泰広)



第15回「くまもと教育・文化フォーラム」に参加して

令和5年11月12日(日)
くまもと県民交流館パレア

テーマ
『生きがいを感じるとき、そして喜びを感じるとき』

11月12日(日)にくまもと県民交流館パレアにおいて、熊本市退職校長会主催市PTA協議会・市教委・校長会共催「第15回くまもと教育・文化フォーラム」が開催されました。「生きがいを感じるとき、そして喜びを感じるとき」をテーマに掲げ、小中学生の発表やPTA活動報告、講演が行われ、その趣旨が至る所に見られた1日でした。

最初に向山小学校音楽部の合奏が披露され、児童は緊張した面持ちで懸命に演奏していました。達成感に満ちた演奏後の表情が印象的でした。日吉中学校音楽部の合唱は全国レベルということだけあり、洗練された歌唱力に聞き入りました。気持ちが入められた歌声を聞き、心が満たされました。龍田西小学校PTAの活動報告では交通安全指導をはじめ、諸活動に工夫を重ねながら保護者の参加意欲を高める実践が発表されました。

講演会は、熊本託麻台リハビリテーション病院院長兼理事長の平田好文氏が「転倒骨折しない街づくり」を演題に講演されました。社会の高齢化に伴って骨折患者が増えていることや、健康寿命を延ばすことの必要性を伝えられました。生活不活発病を防ぐために、口頃から運動することの大切さも訴えられました。

(託麻北小学校PTA 副会長 石坂 誠基)



第68回日本PTA九州ブロック研究大会 佐賀大会

10/28 (土)
・29 (日)

大会スローガン SAGAそう子どもの未来 見直そうPTAの力

「第68回日本PTA九州ブロック研究大会佐賀大会」が10月28日（土）・29日（日）に開かれ、九州各地から約4800人の会員が集いました。熊本市PTA協議会からは161人が参加。佐賀県各地

全体会

2日目に開かれた全体会では、開会式の後、表彰式が開かれました。熊本市からは松島雄一郎氏、寺井伸行氏、川口葉子氏、恵濃善郎氏が出席。PTA活動への多大なる貢献に感謝の言葉が贈られました。次期開催地・長崎に大会旗を引き渡し、佐賀大会は盛況のうちに幕を閉じました。

恒例となった記念講演、今回は株式会社タニタ代表取締役社長の谷田千里氏が登壇し、「社会のためになるAボタン」と題して講演。自分らしく生きるために、働く中で学ぶ「啓育」が大事と話しました。

レシピ本「タニタ食堂」が人気を博しましたが、忙しさのあまり心の不調を訴える社員も。働き方改革に取り組みながら、社員には主体的に取り組むことの大切さを訴えたといします。会場のPTA会員にも「やりがいを持つて取り組む姿を子どもたちに見せて」と呼び掛けました。

フィナーレを飾ったのは佐賀出身のはなわさん。おなじみのドレスを披露しつつ、涙を誘う楽曲では会場を感動の渦に包みました。（江原中学校PTA 副会長 和田史郎）



第1分科会

組織・運営【PTAの力】

第1分科会では討議題を「家庭・学校・地域のつながりを強化した組織・運営」として長崎県大三角（おおみさき）小学校、福岡県若久特別支援学校の2校から提言がありました。コロナ禍において対面会議や行事が制限される中、自治会部会や自治体子ども会をPTA組織の中に組み込んで弾力的な運営をしていたり、特別支援学校のPTAという立場から特支学校9校で連合会を発足、単P同士の活性化を図りながら市P協議会とも繋がり、お互いの縁や和を深める活動を行うなど知恵と工夫を凝らした活動を行っているというものでした。どの単Pも規模や地域性、文化、環境などそれぞれ異なる中で独自の活動を行っていますが、



家庭・学校・地域が連携して子どもたちを支えていくことが以前にも増して求められる世の中になつてきています。その中で社会教育団体としてのPTAの役割もますますその重要度を増してきていると言えますが、双方向の繋がり合う関係を大切にお互いの多様性を認め合う姿を子どもに見せることが持続可能な組織・運営に結びつくのだと感じました。（黒髪小学校PTA 副会長 梅本貴浩）

第2分科会

家庭教育【立ち向かう心と支える取り組み】

第2分科会では、討議題を「Resilience」生き抜く力を育む、として2つの提言校が発表されました。

宮崎県小林市立細野小学校では、細野小と細野中の合同の家庭教育学級が、両校を繋ぎ、また親子で参加でき親子を繋ぎ、さらに、できるだけ身近な地域の方を講師として、地域を繋ぐ活動がされていました。



その他にも、読み聞かせボランティア、あいさつ運動、門松づくり、親子美化作業、地域の祭りなど様々な取り組みで、親と子を繋ぎ、小学校と中学校を繋ぎ、学校と地域を繋

第3分科会

人権教育【過去・現在、未来の人権問題】

第3分科会では討議題を「現在の人権教育を知り、向き合う活動」として2つの提言校が発表されました。

鹿児島県出水市立大川内小学校では、PTA組織で保護者・教職員を正会員、200戸余りの地区民を準会員としています。



この準会員である、大河内地区14自治会長との毎月の会議には学校から校長・教頭が参加。情報交換の中で、登下校の見守りや通学路清掃・点検などのサポートともに子どもたちの様子を知り、子どもを褒めたり、励ましたりすることで自己肯定感のアップに繋がっていると感じました。また、「女子の半ズボンの着用を認めて欲しい」という声から、PTA全体でアンケートを取り、見直しを行うことで喫緊の人権課題への対応がされています。

大分県杵築市立山香中学校では、「心のスイッチ」～自分の心が行動を決めるということ～をテーマに、人権教育講演会を子どもたちとの時間を有効利用していただくために、様々な学校行事をサポートされていました。提言助言者として登壇された安方史宜校長の言葉からも、PTAの保護者と先生方の密な繋がりが伺え、これもまた「共育」に結び付いていました。（託麻中学校PTA 副会長 清田晃子）

第4分科会

教育環境【格差をなくす連携】

討議題「多様化する教育環境とPTAの役割」において、2つの提言が発表されました。福岡県行橋市立泉小学校は保護者・教師・行政の連携を報告。毎年実施する「教育委員会と語る会」は、各小中学校からの要望を直接、市教委に伝える場となつています。今年度はイベント復活に向け、人手不足と負担の格差を解消すべく組織改編に着



手。藤原健太郎会長は「楽しく取り組んでいることを見せていきたい」と熱く語りました。（一社）北九州市PTA協議会では令和3年から、各種イベント事業を自ら主導。「北九州City

特別分科会

【そもそもPTAとは】

「今こそ見つめなおそうPTAの存在意義」の討議題において

まずは、大分県佐伯市にある鷹取屋神社の神職であり元佐伯市職員の矢野大和氏の基調「口演」を聴講。ご自身の体験に基づく子育てに関する様々なトークが繰り出され、氏の軽妙な語り口で会場は大いに盛り上がりました。



続いてこれからの時代のPTAの姿とは「PTA本来の姿を取り戻すための私たちの取り組み」の2つのテーマについて議論が交わされました。

「コロナ禍の影響を受け学校生活の様式も変化を余儀なくされ、PTAの存在意義が問われている状況の中、PTA活動の灯を絶やさず未来に繋げていくことが重要である」と、非常に活発な討議が行われました。

パネリストのパトランSAGA代表・吉富敦思氏からは、パトラン（パトロールラング）活動を通して大人も楽しみながら子どもたちと地域に貢献することが語られました。またマウンテン池田氏からは、地元の人を通じた子どもたちとの関わり等を紹介いただき、最後は氏考案の「竹崎力二体操」も披露され会場は笑いに包まれました。このお一人に、前出の矢野氏、そしてコーディネーターの牛丸和氏の人教育現場経験者ならではの「ご意見も加わり、とても濃密な討議でした。」

最後に、PTAの将来に向けた姿としてPTAに「ローカル」を加えた「PTA-L」が提案され、地域住民を含めたPTA組織・活動の整理と意識共有が不可欠ではないかという提言で、特別分科会を締めくくりました。

会議はオンラインで子どもたちが大人たちと本音で話し合い、議論の内容が「北九州子ども未来宣言」としてまとめられました。また、商店街の協力のもと、ステージや飲食ブース、宝探しなどで地元を盛り上げたのが「PTA子どもフェスタ」。イベント開催の楽しさやPTAへの理解も広まったといします。パイ役を担い、教育環境の平等化を図りたい」と同協議会。親しみあふれるプレゼンで終始、会場を沸かせました。（江原中学校PTA 副会長 和田史郎）

（京陵中学校PTA 副会長 屋田秀二）

各区PTA連絡会研修会開かれる

中央区

2月10日(土)
市民会館シアーズ
ホーム夢ホール

子どもの学びはどう変わるのか？
これからの時代に
必要な力とは？

熊本大学大学院教育学
研究科特任教授 前田康裕先生

令和6年2月10日(土)に中央区PTA連絡会研修会が市民会館シアーズホーム夢ホールで開催されました。

熊本大学大学院教育学研究科特任教授の前田康裕先生に講師として登壇いただき、130名超の方が参加しました。子どもの学びはどう変わるのか？これからの時代に必要な力とは？という題目で、講義と時折グループワークを交えた濃密な時間半でした。

講演では、以下の3点についてお話がありました。(1)社会の変化と求められる力、(2)「学習指導要領と変わる学校教育」、(3)これからの保護者の役割。



西区

2月3日(土)
くまもと森都心プラザ

子どもの多様性
～SOGIって何？～
はみんぐ法律事務所 阿部広美先生

西区の研修会は、2月3日(土)15時から森都心プラザ6Fの会議室にて行われました。

講師にははみんぐ法律事務所2弁護士をされている阿部広美先生をお招きし、「子どもの多様性～SOGIって何？」の演題で講演いただきました。

SOGI(Sexual Orientation(性的指向)Gender Identity(性自認)を表す言葉で、性的マイノリティであるGBOの人たちも含め誰もが持っている性的多様性の尺度である」と説明いただきました。つまり自分自身も含めた一人一人に多様なSOGIが

北区

1月28日(日)
清水公民館

親子で学ぶSNSの向き合い方
デジタルを使った
社会活動を知る

熊本県立大学准教授 小園和剛先生

最初に小園先生が行われている様々な活動を紹介いただきました。そしてインターネット版いかのおすしについてお話しただ

現在、社会の高度化・複雑化、そして予測不可能な状況の中で、「自ら問いを立て、その答えを創造していく能力」が必要なこと、そのために学校教育現場では「主体的・対話的」な取り組みが進められていること、一方家庭内での保護者の役割として、「非認知能力」を育てるために対話が重要であること、また自立心・自制心を育てるためにはどういったふう

に子どもと接していくか、といった複数の視点から今の教育にスポットを当てた大変興味深く、保護者として、とても多くの気づきを与えてくれた講演でした。

前田先生、本当にありがとうございました。
(常山西小学校PTA 副会長 菅島竜三)

あるということになります。子どもたちが自分自身の性を自覚していく中で、ネガティブな感情を持たせないようにすることは周りの大人の役割であり、子どもたちが多様性を理解し、自分や他者を尊重できるように大人も学ぶ必要があります。そのことについて先生は実例を交えながら、わかりやすくお話をしてくださいました。来場した保護者、先生方共に多くの学びを得られたことと思います。

また夜には西区交流会も行われ、熊本中央高校書道部による書道パフォーマンスを披露いただき熱意ある実演に大きな感銘を受けました。あわせて各単Pとも広く交流を深めて、会は盛況のうちに終了しました。
(白坪小学校PTA 副会長 浅野弘尚)



東区

2月10日(土)
東町中学校

「W講演を開催!!」
スキルアップ研修会

2月10日(土)、東町中学校体育館にて臨床心理士である江崎百美子様と母子支援活動家の大場美代子様をお招き、東区PTA連絡会研修会を2部構成で開催しました。

1部では江崎様に「不登校のお子様を持つご家族に伝えたいこと」の題目で講演いただき、何よりも子どもによりそった具体的なアニメやゲームでも子どもが興味を持っていることを知ることが大事ということでした。

2部で講演くださった大庭様は東町中学校出身であり凱旋講演となりました。ヤングケアラーについて「自身の経験をお話しく



きました。いかにも怪しいサイトへ、買わない(すく)安いもの、のせない名前や誕生日など、驚かない(突然のメッセージに)、すぐ連絡親や先生へ、調べる(怪しいことは)。情報とはこれから必ず必要となるスキルなので、インターネットを正しく、安全に、安心して使うために、家族で話し合うことが大切だとい

ことでした。次に北区役所総務企画課の柳田遼太郎さんから北区の子どもの主体とした取り組みについてお話しいただきました。昨年の北区子どもまつりでは、子ども主体で楽しんでもらうことを目的として、中学生を運営に入

れ、崇城大学の学生とリバティブ製菓に協力いただき、オリジナルエコバッグ製作のブースを開きました。中学生の豊かなアイデアや状況を見て自発的に動ける中学生に驚かれたとのことでした。もう一つの取り組みとして、鹿南中学校の生徒が作った地域のPR動画を紹介されました。中学生が作ったとは思えないクオリティで、学校で行われているICT教育の素晴らしい成果が伺えました。

(龍田中学校PTA 副会長 アフストン 智子)

南区

1月14日(日)
火の君文化センター

『人生楽しまなくちゃ』
～コミュニケーションに
おける心構え～
ギター和尙 渡辺起生氏

5497億581万3888、この数字
いったい何だと思えますか？

南区は、天草のギター和尙こと渡辺起生氏を迎えて音楽を交えた講演会を開催しました。優雅に聴かせたピアノ演奏、ハワイアンからオリジナル曲まで力強いギターの弾き語り、おやじギャグで笑いを誘い、抑揚のある独自の説法で観客を沸かせていました。

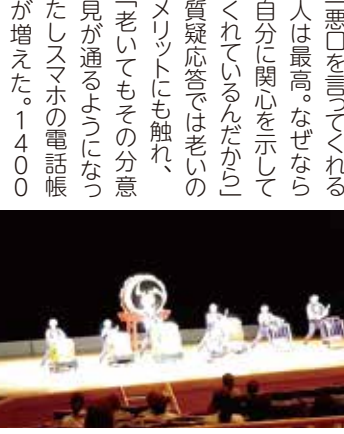


や貧困、産後のうつなど経験されつつも、お母様や恩師など周りの人の支えがあり生きていけた。またこの経験をもとに子育てで悩んでいる人々を支える事業をしてこられました。

お二人の講演は子育てに悩む親の一助になったと思います。素晴らしいご講演を江崎様、大庭様ありがとうございました。
(東町中学校PTA 会長 藤本 慎吾)



印象に残った言葉は、
「私たちが生まれてきたことは宝くじよりもはるかに低い確率」
そして、冒頭の答えですが、
「ご先祖様の人数は、一代前の父母で2人、二代前の祖父母で4人、三代前の曾祖父母で8人、と数えていくと二十代前では105万人、三十九代前ではなんと5497億…。そのなかの一人でも欠けていたら私たちは存在していないのです。私たちの命は奇跡のようにかげがえのないものだ改めて感じました。人間関係については「悪口を言ってくれる人は最高。なぜなら自分に関心を示してくれているんだから」質疑問答では老いのメリットにも触れ、「老いてもその分意見が通るようになった」スマホの電話帳が増えた。1400



熊本市PTA共済

こんな時、安心です!

▼給付について「たとえばこんなとき…」

事故によるけがなどにあつたとき
助けとなるのがPTA共済です

学校で、部活動で PTA活動で

P共済コース 児童・生徒
小中学校の児童・生徒 500円(1名)
高等学校の生徒 800円(1名)
部活動指導員 500円(1名)

安互コース 保護者(PTA会員)
PTA会員(保護者・教職員等) 150円(1名)
PTA活動指導員・支援者 150円(1名)

給付対象となるのは以下の通りです

P共済コース 児童・生徒
*PTA活動中(部活動)中の事故によるけが・急性の疾病(死亡、後遺障害、負傷、欠学期、全休等)
*学校行事(行事)中の事故によるけが・急性の疾病(死亡、後遺障害、負傷、欠学期、全休等)

安互コース 保護者(PTA会員)
*PTA活動中(部活動)中の事故によるけが・急性の疾病(死亡、後遺障害、負傷、欠学期、全休等)
*学校行事(行事)中の事故によるけが・急性の疾病(死亡、後遺障害、負傷、欠学期、全休等)

詳しくはホームページをご覧ください

熊本市PTA共済

熊本市PTA協議会
小・中学生総合保障制度のご案内
(こども総合保障)

学校内外でのケガや、偶然な事故による法律上の
損害賠償責任などさまざまなリスクを補償します。

学校の休み時間に
階段で転んで
ケガをした。

自転車で走行中、
他人にぶつかってしま
いがをさせた。

さらに、お子さまが病気になった時の補償や、お子さまの持ち物の補償、
扶養者の方に万が一があった時の補償など、多くの補償でお子さまをお守りします。*

扶養者が不慮の事故で
亡くなってしまった。

体育の授業中にボールが
当たり、眼鏡が壊れた。

虫歯が悪化、数回入院し、手術を受けた。

オンラインから、パンフレットの確認や
ご加入のお手続きができます。

スマートフォンやタブレットで二次元コードを
読み込むか、下記URLにアクセスしてください。
https://www.515.aig.co.jp/adver2d-6a1/gbvc-24

お問合わせ
熊本市PTA協議会 小・中学生総合保障制度事務局
TEL:0120-228-553

受付時間：平日/午前9時～午後5時 平810-0022 福岡市中央区基山4-3-5 セレス基山5F 株式会社コーリン内
制度引受保険会社：AIG損害保険(株)、東京海上日動火災保険(株)、損害保険ジャパン(株)、
三井住友海上火災保険(株)、Chubb損害保険(株)

S-240509 (2024-12)

人もいる、それだけ自分の相手をしてくれる
人がいることが有り難い」
なるほど、老いると肌のハリや持つている
時間など色々なものが「減る」ことに目が向
きがちですが、今回、渡辺和尙の話を聴いて、
関わる人や経験など「増える」ことに気付く
ことが大切だと気がきました。「年を取る」で
はなく、「年を重ねる」と表現するだけでも心
が豊かになったように感じますよね。
(田迎南小学校PTA 副会長 池部 徹)



まずは、
自ら楽しむこと

画図小学校PTA会長の友村です。画図小学校で5年間、熊本市PTA協議会で2年間関わらせていただいております。PTAへの考え方として、個人的には学びの場とらえ取り組んでおります。

この5年間、PTAに関わりを持たせていただいたおかげでできることがとても増えたと感じております。私は営業の仕事をしているせいか課題解決に取り組むことが好きで、「こんなことできたいいなあ〜」とか、「こんなことやつてみたいですよ」「こんなことに困ってます」などの声を傾け活動の改善に取り組んできました。

その成果として、「コロナ禍の際は、小学校に関わるボランティア団体の活動に制限が入り、できる活動は行っていました。バザーなどの活動が休止となり資金作りができずに枯渇していました。それが、今までになかったイベントを開催することで新しく資金を作ることができ、子どもたちに還元することができました。その際に、新しいイベントになるのでチラシが必要だった。新しく団体を構成し、今までのイベントに付加価値をつけることで集客を増やし校区を盛り上げた活動を行うことができました。また、小学校ではリユース会などの制服譲渡会がなかった。中学校では盛んに行われていることを知り、実施されている学校に聞きながら開催することができ、定着するイベントとなりました。そのような活動の中でも、いろんな方の意見がありました。時には意見が合わないこともありました。成長させてもらったなあ〜と心から思います。そういう経験があったからこそ、楽しんで活動できるようになったのではないかと思います。

PTAの非会員が増えている学校も多くあると聞いていますが、悩まれている所は、会長自ら楽しんでPTA活動を行うことから始めてほしいと願っています。楽しい所に人が集まります。是非、無理せず楽しんでPTA活動と一緒に進んでいきたいと思います。

熊本市PTA協議会 副会長
東区代表幹事 友村 幸雅(画図小学校)

秋津が誇る偉人「横井小楠」

東区「秋津小学校」

『堯舜孔子の道を明らかにし、西洋器械の術を尽くす。何ぞ富国に止まらん、何ぞ強兵に止まらん、大義を四海に布かんのみ。』

これは、秋津が誇る郷土の偉人「横井小楠」先生が、米国留学する2人の甥に送った餞の言葉『送別の語』の冒頭です。

横井小楠（よこいしゅうなん）とは、幕末から明治維新にかけて活躍した思想家です。熊本藩の士族として生まれ、江戸で儒学や西洋学を学び、多くの門弟を育て、日本の近代化に大きな影響を与えた。



碩台小学校 創立150周年

中央区「碩台小学校」

碩台小学校は明治6年（1873年）10月23日、現在の仁王さん通りにある「名専寺」というお寺で坪井小学校が誕生し、昭和5年（1930年）から井川洲町（藤崎八幡宮横）に校舎を構えることとなりました。



現在全児童136名、校訓「つつましく 心ゆたかに たくましく」のなでしこ精神で徳・知・体のバランスの取れた子どもたちに成長しています。特に、音楽教育に力を入れ令和5年度第90回



秋津校区の沼山津には、横井小楠が開いた私塾「四時軒」があります。四時軒という名前は、四季折々の美しい景色を眺めることができることに由来しているそうです。



かの有名な坂本龍馬もこの四時軒を訪れ、熱い議論を交わしたそうです。四時軒は、小楠の旧居として保存され、隣には小楠に関する資料を展示する記念館が建てられています。

秋津校区は豊かな自然環境に恵まれた地域ですが、横井小楠のように素晴らしい偉人の文化も地域全体で大切にしています。

（秋津小学校PTA 会長 東絵美）

春日小学校 創立150周年

西区「春日小学校」

春日小学校は令和5年、創立150周年となりました。場所は熊本駅新幹線口から徒歩2分という大変便利な位置にあります。また花岡山や万日山もあり自然豊かでもあります。景色も新幹線が開通してから大きく様変わりしアミュープラザやマンション等多数できております。今後は熊本空港へのアクセス鉄道や高速道路建設等が計画されており、さらに発展していくと思います。

本校では「やさしく なかよく かし



祝 日吉中学校 創立30周年

南区「日吉中学校」

熊本市南区の日吉中学校が創立30周年を迎えました。令和5年10月20日に記念式典が開催され、在校生、地域の方々も多数参加されました。

記念講演として大分県アフリカンサ

ファリパークの神田岳委員長が「動物と共に生きる」と題してお話をされました。動物の生と死、笑いもあり感動もありの素晴らしい講演でした。その後は、

歴史を子どもたちと共に作り上げてきたベヒシユタインの波瀾万丈の物語を、先生方が脚本・作詞・作曲。オリジナルミュージカル「ベヒシユタイン物語」として全児童で披露しました。

（碩台小学校PTA 副会長 下村紘輝）

熊本市最北端の田底小学校

北区「田底小学校」

本校は明治20年開校という歴史がある学校です。

場所は熊本市の中では最も北に位置し、山鹿市・菊池市と境界を接しています。校区内には合志川が流れており、「慈恩寺経塚古墳」や「田底六殿神社」などの歴史ある文化財や史跡がある中に、植木温泉・宮原温泉などの温泉地帯を有します。



私たちの成長をサポートしており、大きな愛情と温かさにも包まれ育っています。

また、本年度は、20年ぶりに田底小学校グランドデザインが一新されました。「豊かな心と健やかな体を持ち、確かな学力を身に付け、よりよい未来を拓く」

『田底つ子』の育成の新たな学校教育目標のもと、多くの子どもたちの笑顔が見られるように、さらに地域と先生と協同協力して取り組んでいきたいです。

（田底小学校PTA 副会長 吉津勇）

編集後記

平素より熊本市PTA協議会の活動へご理解・ご協力を賜り誠にありがとうございます。また、今年度の市PTA会報の編集・発刊にご協力いただきました皆さまへ心から感謝申し上げます。

今年度は5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、様々な制限のない元通りの社会活動を少しずつ取り戻せた1年となりました。各単Pでも学校行事や周年行事をはじめ、地域の夏祭りやどんどやなどの行事も再開され、様々な形で活気が溢れてきたように感じます。

来年度も会員の皆さまの参考にさせていただける広報誌としてご愛読いただければ幸いです。ありがとうございます。

広報委員長 廣島 大樹(黒髪小)
140号編集委員(順不同／敬称略)

- アシスト 智子(龍田中)
- 浅野 弘尚(白坪小) 友村 幸雅(画図小)
池部 徹(田迎南小) 橋口 美智子(日吉小)
石坂 誠基(託麻北小) 東 絵美(秋津小)
井手 和宏(城南小) 藤本 慎吾(東町中)
梅本 貴浩(黒髪小) 屋田 秀一(京陵中)
菅島 竜三(常山西小) 吉津 勇(田底小)
清田 晃子(託麻中) 和田 史郎(江原中)
栗崎 大輔(麻生田小) 高梨 沙織(京陵中)
桑原 宏昇(春日小) 北里 隆明(碩台小)
下村 紘輝(碩台小) 原田 英之(出水南中)
園田 泰広(山本小)

(写真提供) 航空写真業者 ユニオン・エンタープライズ株式会社